

# 由良中だより

平成 21 年 3 月号 洲本市立由良中学校  
電話 27・0122 FAX 25・7011

## 『がんばれ 由良中卒業生』

今年も洲本市内にある三つの高等学校の卒業式に出る機会をいただきました。三年前のこの時期に由良中学校を巣立った第 59 期生（全 36 名）の卒業式です。

卒業生代表で答辞を読んだ生徒、皆勤賞や成績優秀賞を受賞した生徒、難しい資格を取得した生徒など、この由良中学校卒業生の活躍ぶりに本当に嬉しくなりました。また、苦しい壁を何度も乗り越えてやっこの日を迎えることができた生徒のことを思うと、胸が熱くなりました。

卒業された本人はもとより、温かく見守り支えた保護者やご家族の皆様方に心からお祝いを申し上げます。

本校では、この度 62 期生が卒業を迎えます。後に続く彼らにとつて、この先輩の頑張りや目標となるとともに、大きな励みになるに違いありません。「由良中卒業生」のますますの健闘に期待します。

## 第六十二回卒業証書授与式

3 月 11 日（水）10 時、体育館

この度、21 名（男子 15 名、女子 6 名）が卒業します。

地域の皆様も共にお祝いいただきますようお願いいたします。（亀田）



## もっと由良中

一年「トライやるウィーク」に向けての取組

自己アピール発表会（2 月 4 日）  
二年生で実施する「トライやるウィーク」に向けて、「大きな声ではつきり」と、人に伝わるように発表する「目標に実施しました。一人ひとりが自分の長所や自分にできること」について、教室で発表しました。

### 社会人活用事業（2 月 18 日）

「職業を知る」をテーマに、成錦堂書店代表取締役・湊格（みなと たいだし）氏をお招きしました。この仕事に就いたきっかけやエピソード、やり甲斐などについて、ユーモアを交えて楽しくお話し下さいました。（裏面に生徒感想文）

次年度の「トライやるウィーク」は、5 月 25 ～ 29 日の 5 日間を予定しています。受け入れ先事業所をはじめ、地域の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

### 二・三年学級閉鎖

2 月 2 日～ 5 日の間、インフルエンザの流行により学級閉鎖をしました。4 日に予定していた授業参観と懇談会を中止し、10 日に予定していた校内テストも翌週に延期しました。

### 生徒指導委員会から

卒業式が間近に迫ってきました。卒業生の皆さんには、義務教育九年間で学んだことを基礎とし、信念を持ち、自分の道を進んでいってもらいたいと思います。うまくいかないことも多いと思いますが、必ず将来自分の役に立つはずです。是非とも自分の成長につなげていってください。

## 保健室から

中学一年生のお子様をお持ちの保護者のみなさん

昨年四月から中学一年生に相当する年齢の人は、はしか（麻疹）の予防接種を受けることになりました。もう接種はお済みでしょうか？  
公費（無料）で受けられる期間は限られていますので、体調が良ければ早めに接種することをお勧めいたします。（接種期間は、平成 21 年 3 月 31 日まで）

## スポーツ由良 Jr.

### 陸上競技部

今月 20 日開催の「洲本市春季記録会」、28 日開催の「県記録会」で、それぞれ自己ベストが出せるよう頑張っています。応援よろしくお願ひします。

### バスケットボール部

「真剣勝負！」を合い言葉に、4 月の「全淡選手権大会」勝利をめざして頑張っています。

### 野球部

「楽しく、元気に練習する」をモットーに頑張っています。新入生の入部を心待ちにしています。

### 卓球部

見て楽しむより「やって楽しむスポーツ」。やればやるほど奥深さが分かります。新入生の入部を待っています。

## カルチャー由良

### 美術部

卒業式場用のキャッチフレーズ（舞台上横看板）作成に、毎日楽しく取り組んでいます。ご期待下さい。

### 吹奏楽部

4 月初めの「クラブ説明会（新入生対象）」での演奏に向けて、新曲に取り組んでいます。

## 3月の行事予定

日	曜日	行事名
1	日	3 年校下
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	卒業式練習 / 3 年給食最終日
6	金	卒業式練習 / 3 年球技大会
7	土	
8	日	生徒会ボランティア活動
9	月	卒業式練習 / 3 年愛校作業
10	火	卒業式予行 / 公立受検指導
11	水	第 62 回卒業証書授与式
12	木	
13	金	公立高校一
14	土	力検査
15	日	

  

日	曜日	行事名
18	水	1 年球技大会
19	木	2 年球技大会
20	金	春分の日 / 市陸上春季記録会
21	土	
22	日	
23	月	1・2 取終日
24	火	大掃除
25	水	修業日
26	木	春季休業日（～ 4 月 6 日）
27	金	
28	土	
29	日	陸上県記録会
30	月	
31	火	平成 21 年度 始業式・入学式 4 月 7 日

十五歳の春 家族への思い

三年 山本 昂生



今の自分があるのは、家族がいたおかげだと思えます。十五歳になってそのことがよく実感できるようになりました。自分が小さかったころは、父親の兄弟も一緒に住んでいたの、よく部屋に遊びに行ったりして楽しかった思い出があります。しかし、時間が過ぎていくとともに、全員が結婚してさびしい思いをした経験もあります。自分が困ったときに手伝ってくれたのが母親で、いつも働いてくれるのが父親です。僕の反抗期は小学校の高学年ぐらいでした。その時には迷惑をかけたことがあります。きつくしかられたこともあります。そんな家族がいてくれたから今の自分があります。本当に感謝しています。

三年 向所 壮優

家族には色々なことをしてもらいました。例えば、僕を今まで育ててくれたことや、一緒に遊びに行ったことなどがあります。でも僕は、迷惑をかけてしまったり、怒られたりしたこともあります。怒られた時はすくむかついたり、腹が立ったので、家族など必要ないと思っていました。家族などおらんほうがええと思っていました。今でも、僕が悪いことをしたら注意してくれますが、やっぱり腹が立ってしまいます。心の中のどこかでは、ありがたいと思っているけれど、それを隠して、素直になれない自分がいます。そのせいで、余計に怒られたりしてしまいます。だから、そこを直さなければいけません。この世の中に一つしかない家族を大切にしなければいけません。僕をここまで育ててくれた家族に感謝しています。その家族に腹を立てたりしてはいけなさと改めて思いました。家族を大切にしていきたいです。

三年 花野 瑞稀

気がつく、一週間後はもう卒業式。五年って経つのが早かったと思う。十五年間、両親には大変な思いをさせてしまった。幼かったから気づかなかった親のありがたさ。私は三人姉妹だから、普通よりすぐ辛かった時期もあったらう。それでもここまで立派に育ててくれて本当に感謝している。私は、本当は親が大好きなのに、ついつい反発してしまったり、ひどいことを言ってしまうたりと素直になれない。時にはうつうつしいと思ってしまう面もある。でも、それらは全部私のためなんだと思うようになり、最近では反発しないようにしている。

三年 龜居 剛志

一ヶ月ほど前の二月八日で生まれてから十五年経ちました。十五年生きてきて親なしじゃできないことはたくさんありました。特に受検。受検の時、夏休みが終わったぐらいから「勉強せえ、勉強せえ。」って言われていたけれど、僕はまったくと言って言われていたけれど、僕はまったくと言って言われても毎日毎日「勉強せえ、勉強せえ。」って言われても二日ぐらい経ったらまた「勉強せえ、勉強せえ。」と言われて、腹が立ち反抗する。この繰り返しでした。そして、推薦がもらえるのかも良かっただけの日。僕はもっと勉強したら親の言うことが本当になりました。僕はその後、親の言うことを聞いて、勉強をしました。その結果合格でした。僕は受検という行事で初めて親に感謝しました。

三年 加田 信吾

十五年間、僕は多くの人に支えてもらいながら、後一週間で卒業というところまできました。友達や学校の先生、他にもたくさんのお世話になってきました。やはり一番苦労をかけたのは父母です。生まれてから今まで毎日面倒を見てくれました。十五年という長い年月を休みなしにとても大変だったのではないかと思います。学校が始まると友達ができ、学校にいる時間がとても楽しかった。その反面、家に帰ると少し物足りないような感じがして、親の言うこと言うことがうとうとしく感じたりしたのは少しだけではありませんでした。そのたびに言い合いになったりした時もありましたが、次の日には普通に接してくれていたのを覚えています。

春からは高校生。もういつまでも甘えて

いるわけにはいかないと思っています。そろそろ自立していかないとけません。そのためには受検を成功させて、四月から頑張っていこうと思います。

一年「にんげんドキュメント アジア」ガムラン職人「バリ島」(ドキュメンタリー)を観て(感想) (抜粋)

話の概要「ガムランという楽器を作っているワヤンという青年が主人公。2年生との年齢差はわずか6歳。その彼が向き合う大きな問題とは、仕事、伝統芸能、家族、人生。自分以外の人のために頑張れることはすごいことだと思った。リンディさんに、音の仕事を教えられているワヤンさんの目は真剣で楽しそうだった。私も嫌なことかあつて逃げ出したいと思ったこともあったけど、頑張ったワヤンさんを見たら、何だかつらいときこそ頑張らなと思った。

ワヤン君の兄弟は学校に行きたくても行けないのでかわいそうだった(中略)自分は高校・大学にも進学しようと思えます。

自分は受ければ高校・大学に進学できるので。私たちは今あたりまえのように学校に通い、「自分じゃなきゃ」という気持ちは少なく、考えたこともないと思います。人には感情があります。だからつらい仕事は逃げたくなることもあると思うけど昔から受け継いできた伝統を守ろうとしている一人の人間がとても大きな存在になると思っています。

このビデオを観て僕が思ったことは、とにかく我慢が大切だなということだ。嫌なことでも続けてみると何か良いことが起こるかもしれないと思った。(中略)今は嫌でもそのうち仕事の楽しさなんか分かってくるんじゃないかなと思った。

一年「職業を知る」を学習して(感想) (抜粋)

湊さんの体験したことや、本屋の仕事についていろんな話を聞くことができました。私もこれから自分の一番好きなことを見つけて、挑戦してみたいです。

湊さんは一冊の本のために、その本を探した。「お客さんの喜ぶ姿が見られたら」という言葉を聞いて、湊さんをもちろんすくいと想ったし、なにより尊敬できました。湊さんから、「好きな事ある？」と聞かれて、私は「今考えてみれば、そんなに好きな事がないなあ」と今日気づきました。今から、好きな事、自分が夢中になる事を見つけていこうと思えました。

北海道から来たおばあさんとおばさんの話を聞いて、とてもすごいなあと思った。先祖を探すために、北海道から来たと聞いて、「本屋だったから、こういう経験ができた」と言っていたので、なるほどと思った。僕の家にも「13才のハローワーク」があるので、その本も読んでみようと思えました。

「由良中だより」を一年間お読みいただき、ありがとうございました。